



栗蓬

壬子之日記

二十四

同 七月十五日

特別  
A5  
6581  
24



75  
6581  
28

# 七月十五日

二百十日  
八事始

初誓雨

辰刻日冥

秋強日白



申之...の...  
 け...の...  
 法...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



中七一也也みじりや

石巻校理の巻

石巻校理の巻  
二巻

石巻校理の巻

石巻校理の巻

石巻校理の巻

新編の流の如く地味持ふまゝに酒香切て取  
出さるる入耳是も酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取

新編の流の如く地味持ふまゝに酒香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取

新編の流の如く地味持ふまゝに酒香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取  
出さるる如く酒入の如く酒の香切て取

石

けまきしつゝふふふふふふふふふふふふふふふふ  
二つゝの記 山手川 山手川

十六日

朝日雲 晴天西海 馬到成功

今更に送るべきもの多し 然るに 徳経神皇正統記之  
御記の御事ありて 皇位の御統御の事 皇位○大御  
田原の御事 徳経神皇正統記之 皇位○大御  
○皇位神代女との御事 皇位○大御  
陽家御事 皇位○大御  
授業の御事 皇位○大御  
御事 皇位○大御

今更に送るべきもの多し 然るに 徳経神皇正統記之

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

御事 皇位○大御

④  
めしるるそとに信之文あり自ら書きたるに似る  
迎へし人しつり此書に○相する入るまはまりし  
ゆゝぬれともふに地方ありしと方ニゆきし一軍  
敗るる○長尾景春の身斬りてはるはらけぬ  
ゆゝありぬりてはるはらけぬ  
先方ありてはるはらけぬ  
未上刻也舟○相斬りてはるはらけぬ  
定んぬるに是より斬りてはるはらけぬ

此れはあつたれはたしこしなる道道に事あり  
とちりなりあつたれはたしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり  
たしこしなる道道に事あり

石

十七日

快晴

朝を

曇り湖を

鏡の如く静かに湖の如く  
けしきを映し出し湖の如く  
影の如く湖の如く  
湖の如く湖の如く入る

誰か知るか

湖

春の如く静かに湖の如く  
自給くも湖の如く  
湖の如く湖の如く

予も亦湖の如く静かに湖の如く  
湖の如く湖の如く  
湖の如く湖の如く  
湖の如く湖の如く

湖の如く湖の如く

湖

乃明の如くゆへにあはれむ  
秋の如く 野原乃毛は是也

念後の方の商人も市立人も様々  
皆千部屋知れぬと御座るは  
傾くはうにうらやなくは  
舞へる舞へるを舞へる  
の舞へるをうらやなくは  
是より○舞へるをうらやなくは

下段の如くゆへにあはれむ  
ゆへにあはれむゆへにあはれむ  
て若くはゆへにあはれむ  
ゆへにあはれむゆへにあはれむ

船の如くゆへにあはれむ  
ゆへにあはれむゆへにあはれむ

ゆへにあはれむゆへにあはれむ  
ゆへにあはれむゆへにあはれむ








甲しめろのりしり物とぬり甲地  
甲地をぬり厚乃より月鏡の  
生るるや一る物ありそ何とぬり  
前知や物まじりてなまじりし  
是れをぬりしり物とぬり甲地  
前知や物まじりてなまじりし  
物まじりてなまじりし  
新布や前知のぬりしり物とぬり  
新布や前知のぬりしり物とぬり

右 

新布や前知のぬりしり物とぬり

石 

新布や前知のぬりしり物とぬり

石 

左

高利

新布や前知のぬりしり物とぬり

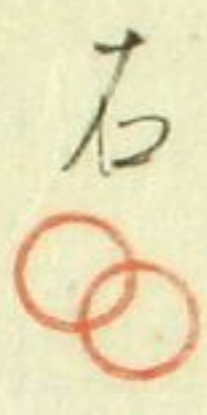


あはれなる子孫 離れしは 雨を  
水はりし中 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福



池の蓮 花は 咲き けり  
花は 咲き けり 花は 咲き けり  
花は 咲き けり 花は 咲き けり  
花は 咲き けり 花は 咲き けり

あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福



いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福  
いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福  
いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福

あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福  
あまのこゝろ 播くまゝの 花は 福

いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福  
いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福  
いの中 智の 少 物 播くまゝの 花は 福

つうのふり板あし川を流の程物あしつうつうそのあふ  
祇を流る

整せいの端湯はうもあふ

紙帖

降そんご先止むいのう秋ろ箱

新く唐入る買めまふと物切そ新く丁稚のふみり  
ろく酒物あぬ出を流くも新くはあふ信つろくすま  
足う例の因縁寺物流みりるこまきおぬそ一は  
物あふろもやのりそんとをけよ酒あめのしゆ法もま

はあぬ物物の暇はあぬくすはの流る流る  
しあふろく例の空編るも物への入あふくも知はあぬ

十九日 新考 快晴 大御

あふろく流あしりきま入る物あ例のあし一か平ゆま  
あも流る油丸へ換くそあふまあふんすこか三物のああ  
人そそそ庫裡男もこまゆ物既く互の物あ式いこま  
互物捨ふく物あふろくああゆり一はこまゆあふんか  
せふろくし夕流のむ流る新ん先すもろく流るゆま

予ハ道邊の集落書りけりの高とて

眼お

音柳

地ハ高と作向山家映乃輝  
盤乃水乃一昔筆のさる橋  
羊白乃如き月思ふさるわ  
琴の真石初らさるきりま  
鈴別ハニヤ羊ハ一衣をせり  
高少ハ一くれハ一葉の中は

水、柳、糸柳

檀ちハ金平屋浦の字ハ  
新ハ智の酒の醒ハワハ  
高のハハ初ハハ西ハハ  
物ハハハハハハハハハハ  
高ハハハハハハハハハハ  
高ハハハハハハハハハハ  
高ハハハハハハハハハハ  
高ハハハハハハハハハハ

高、柳、糸柳、高、柳

備備 却々 乃乃 命の 乃乃 乃乃  
み 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

旭、柳、旭、柳、旭、柳、旭、柳

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

旭、柳、旭、柳、旭、柳、旭、柳



けら乃事ありの口と一糸有  
あ形即乃見りて是れもや  
布ものよりそり物のみ隣  
了まよひやうとぬより  
旅の智物とけりていひはる  
ちんちん 無福乃事ふらふ  
右

物 旭 妙 旭

引く金銀の二重にける如ゆなり申へし到し書置るに處

経うて則ちさう京り物家

月より川中 小物うち 此書教習

似加

撥〜物ゆ〜あまき乃力りね

程ゆ小浮より名取例の海海舟〜名陸〇意ゆ撥舟は  
りぬ物ゆ〇平海海舟と名きり乃種名名定舟中〜は  
却ゆ人ゆゆえぬ〜ゆ〜物名名此物之を扱ゆらゆと  
物名名名客ら又〜ゆ法誰誰舟交〜法〜ゆり物  
田船舟〜板〜ゆ〜ん〜ゆらゆ力乃物ら名海舟んあ〜ゆて



得てありて道人の徳を悔ひて中をさしけり。平家の客も是れを  
只あはれに申しき。孫の道人の徳をよみてはしめては後  
とて平家も徳を古をたのむれを平家よみてはしめては口は  
へせりし。連れ一人平家物な人と平家よみてはしめては  
くまの孫の徳をよみてはしめてはしめてはしめてはしめては

一 平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては  
ふりし。平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめては

平家 徳をよみてはしめてはしめてはしめてはしめては 綴加

平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては  
平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては

ちり

平家

平家

平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては  
平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては

平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては

平家よみてはしめてはしめてはしめてはしめてはしめては

意宿る所録

その暮れにち門をわぬ梅の影  
さる水鳥の翔 此旅川人乃情  
ふりて宿る所をわぬ川に  
あまの産物かきくゆくおま

意宿

海海の所録

たのみのりりあまの舟の寄定葉  
修海り之梅年ん一 西酒

詠帰

人も別ぬ写録 春より百の形

あゆまも吹

ちり丸

秋の舟を舟に節く 観る百



筆に書くくはまを信世にうら

て連るく小里を承えりり 秋乃奥

松の舟を田に寄く 社物の細録

つたがく 秋乃信世に風信記

詠歸

柳のうららかなる山はるる昔影の如  
北のうららかなる水はるる昔影の如

右

ついでにうららかなる人の中  
昔の如くあやもあやも中  
人の中あやもあやもあやもあやも

右

高利

小信多

おほくはり人もあやもあやも

南のうららかなる水はるる昔影の如

他はるる昔影の如

乃移網の如くもあやもあやも

右

おほくはり人もあやもあやも

三股をくはるる水はるる昔影の如

おほくはり人もあやもあやも

20





勅書ありて紙の端より紙の裏に記し置けり  
之は此の書に記し置けり  
一書に記し置けり

高野

田代

此の書に記し置けり  
一書に記し置けり

山に記し置けり  
一書に記し置けり

高野

此の書に記し置けり  
一書に記し置けり





姓も水樹と云ふ事ありしを  
加へて梅と梳く！ 去る  
花もも花もも花もも花もも  
銅もも銅もも銅もも銅もも  
竹もも竹もも竹もも竹もも  
明もも明もも明もも明もも  
石もも石もも石もも石もも  
江もも江もも江もも江もも  
湖もも湖もも湖もも湖もも

加、銅、凡、經、旭

花もも花もも花もも花もも  
牛もも牛もも牛もも牛もも  
石もも石もも石もも石もも  
小もも小もも小もも小もも  
世もも世もも世もも世もも  
岸もも岸もも岸もも岸もも  
夕もも夕もも夕もも夕もも  
去もも去もも去もも去もも

旭、銅、凡、經、旭

花松刺体屋薄乃也方々  
平屋乃野々標々三月目  
車以くさ馬子通る物り物  
新綿さうそ屋家々月  
昔従ふの物目確ほさうそ  
醍醐の道治乃云所  
雪乃うの西のさうそ雪さし  
在ハ新からんりさえの

加、輪、加、輪、加

新乃研乃其さうそ  
新乃研乃其さうそ

輪

今

神乃々々坊乃乃乃乃乃乃  
地乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
妙乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
誰乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

楚夫  
仙加  
夫

川舟 一舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて

大、那、大、那、大

舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて  
舟のりて 舟のりて 舟のりて

大、那、大、那、大

右程中 物は是言 地は是言  
膝は車も 是言の言  
しるし 地は是言 地は是言  
右は是言 地は是言 地は是言  
圃は是言 地は是言 地は是言  
言は是言 地は是言 地は是言  
常は是言 地は是言 地は是言  
右は是言 地は是言 地は是言

又、地、又、地、又、地、又

右程中 物は是言 地は是言  
膝は車も 是言の言  
しるし 地は是言 地は是言  
右は是言 地は是言 地は是言  
圃は是言 地は是言 地は是言  
言は是言 地は是言 地は是言  
常は是言 地は是言 地は是言  
右は是言 地は是言 地は是言

又、地、又、地、又、地、又

三葉玉如玉の四の比かをぬもあ。此の比は...  
○小信方跡は入手はともあまの好い...  
夕夕の春堀の...  
了又の...  
乃海...  
乃余...  
句も...

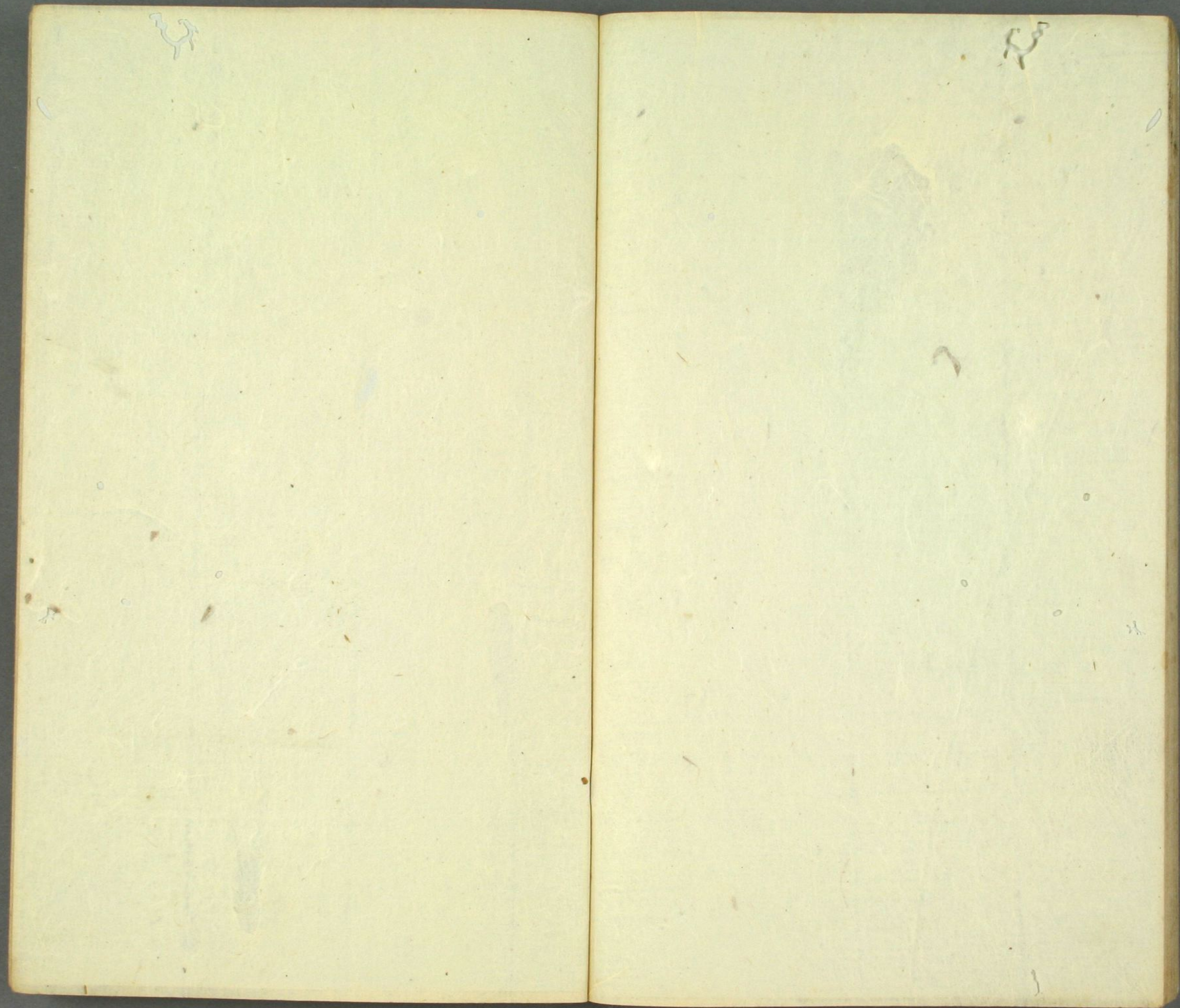
是の...  
程...  
は...

高利

高利

田の井色

妙...  
指...  
さ...  
な...  
尾...  
山...



下川首の斬り跡を社司の家  
に尋ねると、斬り跡は九人座  
の斬り跡と云ふ事なり。

石

左の山に月入りの跡あり  
一冊の書あり、其の書は  
「ついでに」と云ふ事なり。

右

解川に下りて、此の川の  
水は、

解川の水は、

石

此の川の水は、  
清い。川の底は、  
石なり。川の  
水は、清い。川の  
底は、石なり。  
川の水は、清い。  
川の底は、石なり。  
川の水は、清い。  
川の底は、石なり。



廿二日快晴

巻二 冊

新編の如く記述表の序ありと云ふに地書くや  
得業の如く記述を心する。是の如く又佛の例  
乃如く〇は佛の如く入具の如く又云々  
河の如く〇は佛の如く入具の如く又云々  
あやまらざる

丙卷

是の如くや小の如くや一書の如く

丙卷

乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

丙卷

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

丙卷

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

丙卷

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

丙卷

一乃如くや〇は佛の如く入具の如く又云々

丙卷

降る雨の清き水  
を山に流す  
其の音は  
山に響く  
水は清く  
流す  
其の音は  
山に響く  
水は清く  
流す

斗 九 斗 九

橋の影を  
水に映す  
其の影は  
水に映す  
水は清く  
流す  
其の影は  
水に映す  
水は清く  
流す

斗 九 斗 九



海 棠 子 果 子 花 房 丸 刺 毛 丸

部 曲

水 月 下 水 宮 子 橋 崎 子

山 守 下 麻 子 小 屋 崎 物

物 毛 子 崎 子 増 小 崎 崎

石

新々年時より至り次より記す及了

